

# アール・ブリュットを巡るトークシリーズ

2011 夏 - 2012 春 | 参加費無料(予約制) 滋賀県内 - 岩手県内 - 東京都内 各所

視点0 シリーズ企画 レポート (文:企画担当ディレクター アサダワタル)  
 嘉田由紀子(滋賀県知事) × 保坂健二郎(東京国立近代美術館研究員)  
 2011年6月18日(土) 於:ヴォーリズ平和礼拝堂

長年、琵琶湖の研究を始め、滋賀県ならではの「美」のあり方を追求されてきた滋賀県知事 嘉田由紀子さん。そしてアール・ブリュットの研究に造詣が深い東京国立近代美術館研究員の保坂健二郎さん。「3.11」後に私たちが自然とどのように関係していくかという大きな問題意識から、これからの美術(あるいは美術館)と地域社会との関わり方を模索した。その中で、アール・ブリュットという作品類においては、たとえ美術館収蔵/展示というプロセスを辿りつつも、その作品が生み出された福祉・医療施設における作家の日常行為やその記憶が、本来的に強くその作品の内部に包摂されていることを確認。作品単体では語りきれず、「どこで、だれが、どのように作っているか」を観る者に想像させるアール・ブリュットの存在から、人間



と地域の文明、そして自然、そのすべてがボーダレスな関係性を持った有機的な社会のあり方(嘉田さんはこのことを、「これまでの中央集権的な“水道型社会”から、コミュニティに根付く水脈を拠り所とする“湧き水型社会”へ」と語った)を見出すヒントを得た。また、「3.11」後の表現の可能性を探る上で、嘉田さんは、私たちの日常の身近にあるものを様々な組み合わせながら、そこに意味づけをしていく「ブリコラージュ」という発想に言及。一方、保坂さんは美術館という枠組みに収まる「ミュージアムピース」としての作品のあり方がどのように変化していくのか、またその変化の中で求められる「エコロジカルなアーティスト」のあり方とは何か、という問いを投げかけ、新しい美術館の可能性を示唆する興味深い展開となった。

嘉田由紀子

アメリカ・ウイスコンシン大学大学院修士課程、京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。農学博士。琵琶湖研究所主任研究員や琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て、2006年7月に滋賀県知事に就任。現在2期目。1970年代から琵琶湖、アフリカ・マラウィ湖など世界各地の湖沼地域を訪問し、湖と地域社会、生活文化についての比較社会学研究に従事。好きな食物はふな寿司、ぜいたく煮。趣味はカラオケ、孫と過ごすこと。座右の銘「まっすぐに、しなやかに」。

アール・ブリュットを巡るトークシリーズ

- 視点1 斎藤環 2011年7月9日(土)
- 視点2 田端一恵 2011年9月3日(土)
- 視点3 はたよしこ 2011年9月24日(土)
- 視点4 細馬宏通 2011年10月1日(土)
- 視点5 中沢新一 2011年11月19日(土)
- 視点6 田口ランディ 2011年11月26日(土)
- 視点7 高橋伸行 2012年1月28日(土)
- 視点8 田中恒子 2012年2月18日(土)

【主催】 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA  
 社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団 滋賀県

【企画】 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

【お問い合わせ・予約申し込み先】  
 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA  
 〒523-0849 滋賀県近江八幡永原町上16 (旧野間邸)

【TEL/FAX】 0748-36-5018 (受付時間 10:00~17:30 ※月曜休館)

【E-mail】 no-ma@lake.ocn.ne.jp

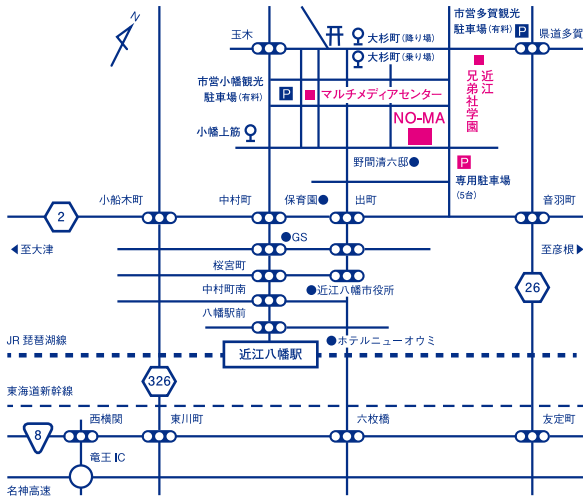
【URL】 http://no-ma-abtalk.jimdo.com/

【twitter】 @artbrut\_talk

※各回とも定員になり次第締め切ります。  
 ※お申し込みの場合は、「予約希望企画名」「お名前」「電話番号」をお伝えの上、お申し込みくださいませ。

【ディレクター】 アサダワタル (日常編集家)

【デザイン】 後藤哲也 (OOO)



※この地図は、近江八幡市内が会場である視点1,3,6,8に対応しています。他視点の会場に関してはそれぞれの「アクセス」、もしくは企画専用ウェブサイト(http://no-ma-abtalk.jimdo.com/)にてご確認ください。

視点1 斎藤環  
 アール・ブリュット(仏: Art Brut) ... 「生の芸術」という意味のフランス語。artは芸術、brutはワインなどが生(ぎ)のままである様子を表し、画家のジャン・デュビュッフェが1945年に考案した概念である。正規の美術教育を受けていない人が自発的に生み出した、既存の芸術のモードに影響を受けていない絵画や造形のことを指し、後にイギリス人著述家のロジャー・カーディナルが「アウトサイダー・アート(英: outsider art)」と英語表現に訳し替えた。

視点2 田端一恵  
 世界中から注目を集めるこのアール・ブリュット。近年日本においてもその例に漏れない。パリ市立アル・サン・ピエール美術館では、日本の作品に興味を持った館からの要望で昨年3月から10か月、総勢63人の日本人作家の作品を集めた

視点3 はたよしこ  
 視点4 細馬宏通  
 視点5 中沢新一  
 視点6 田口ランディ  
 視点7 高橋伸行  
 視点8 田中恒子